

浅間山

八風山

香坂山遺跡

写真：大場正善氏撮影

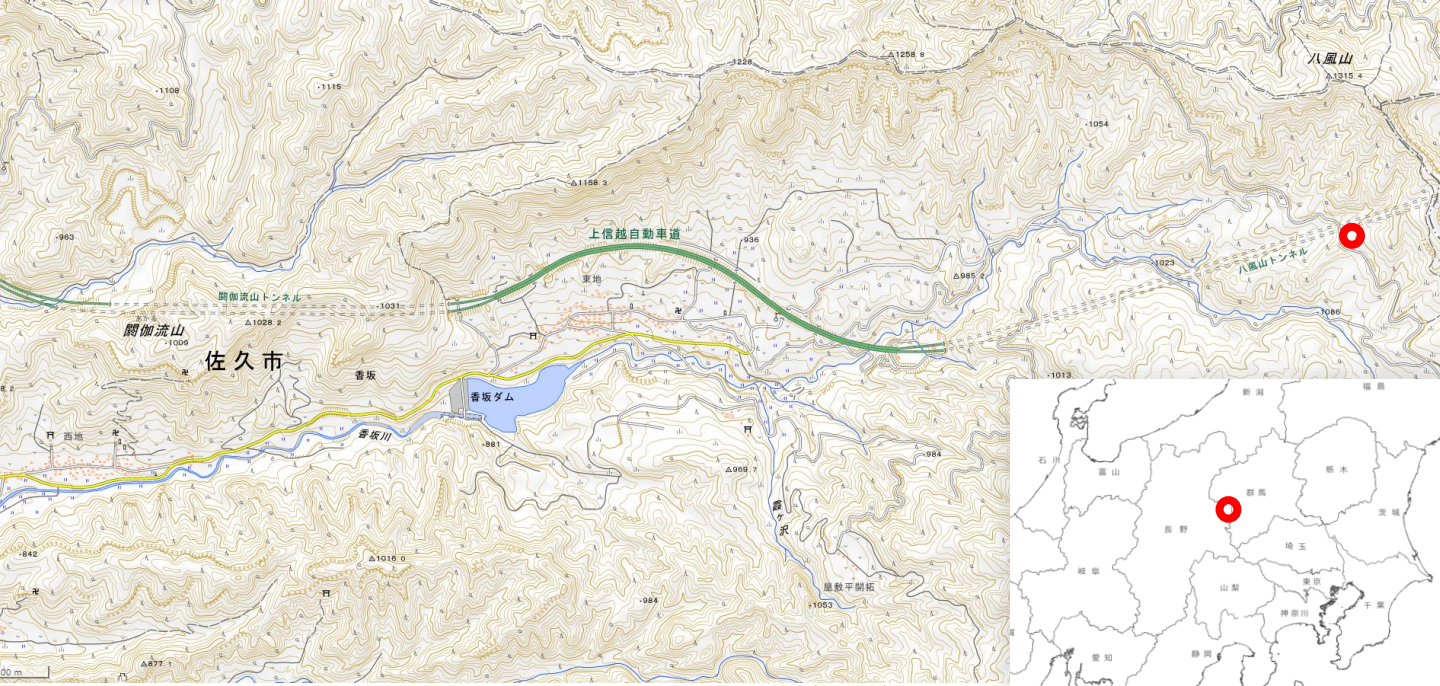
香坂山遺跡の第2次発掘調査

令和2年8月 国武 貞克（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）

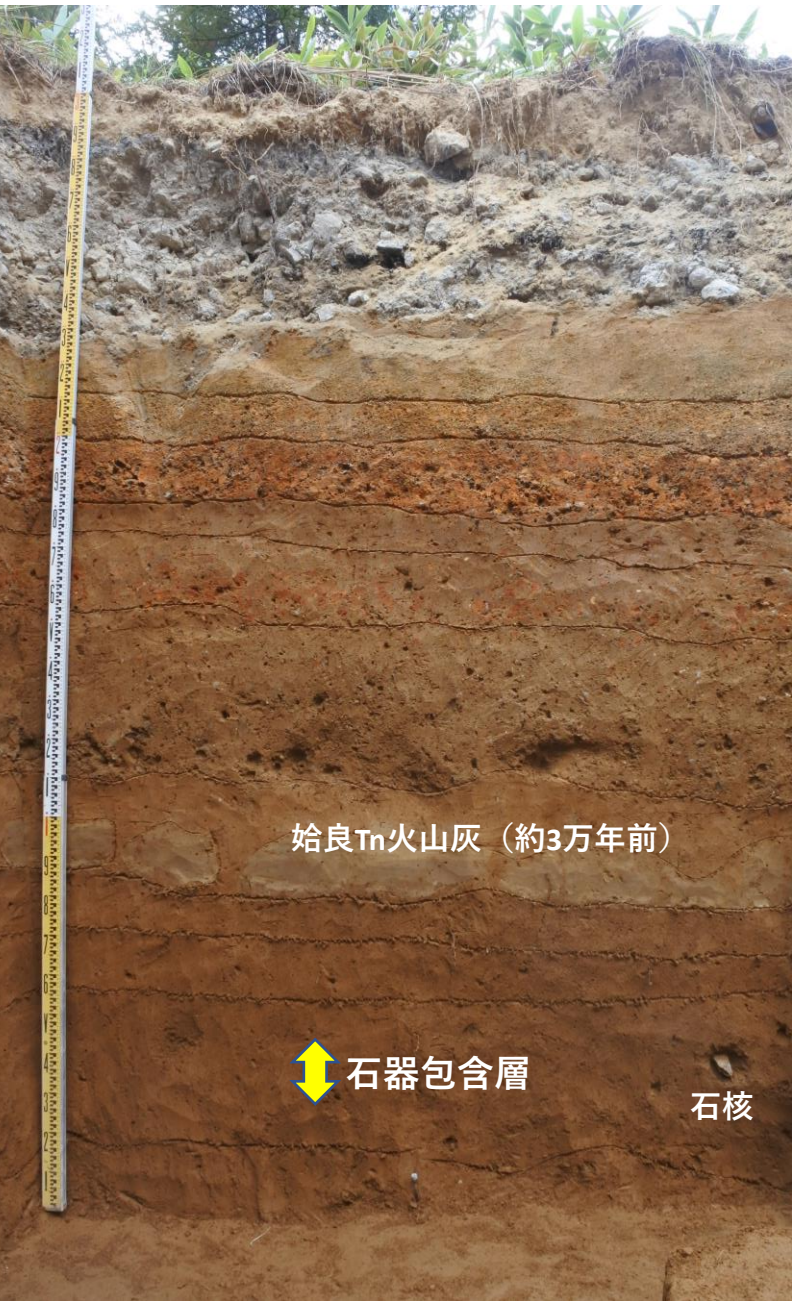
【調査のねらい】

- ・日本列島における石刃生産技術の発生過程が、中央アジアから東アジアに至るユーラシアの同時期の石器群の発展と、どのような関係にあるのか解明することが最終的な目標です。
- ・このため石刃遺跡として最古の年代が得られた香坂山遺跡（長野県佐久市）で炭化物を採取し、列島の石刃生産技術の発生年代を精確に解明します。
- ・あわせて、最古の石刃石器群に関わる新資料を入手し、この時期の石器製作技術や技術組成を解明します。

【日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B 代表国武19H01354）による調査です】



遺跡の位置 (赤丸)



始良Tn火山灰 (約3万年前)

⇕ 石器包含層

石核

第2次調査区の土層堆積状況



香坂山遺跡は上信越自動車道の立坑地上施設の建設に伴い、平成9年に長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査され、大型石刃を含む旧石器が390点発見されて、36,029-35,058 cal BPの年代が得られました。第2次調査区は平成9年調査のBL6区の西に隣接し、8月上旬の第1次調査区の北に設定しました。



写真：堤隆氏

第2次調査では21㎡発掘し、石器は約3万年前の始良Tn火山灰(AT)の純層から約50cm下位の地層から約200点出土しました。



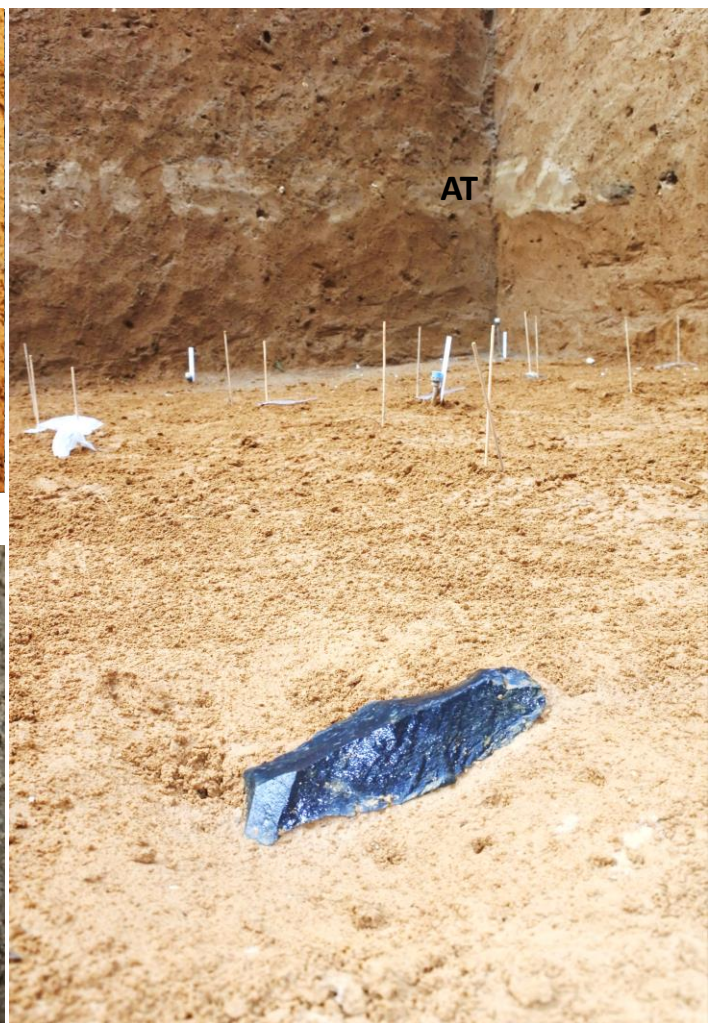
調査区の南西（右手前）で石刃と石刃核が、北東（左奥隅）で尖頭形剥片がまとめて出土しました。



黒色安山岩製の尖頭形剥片が出土しました。

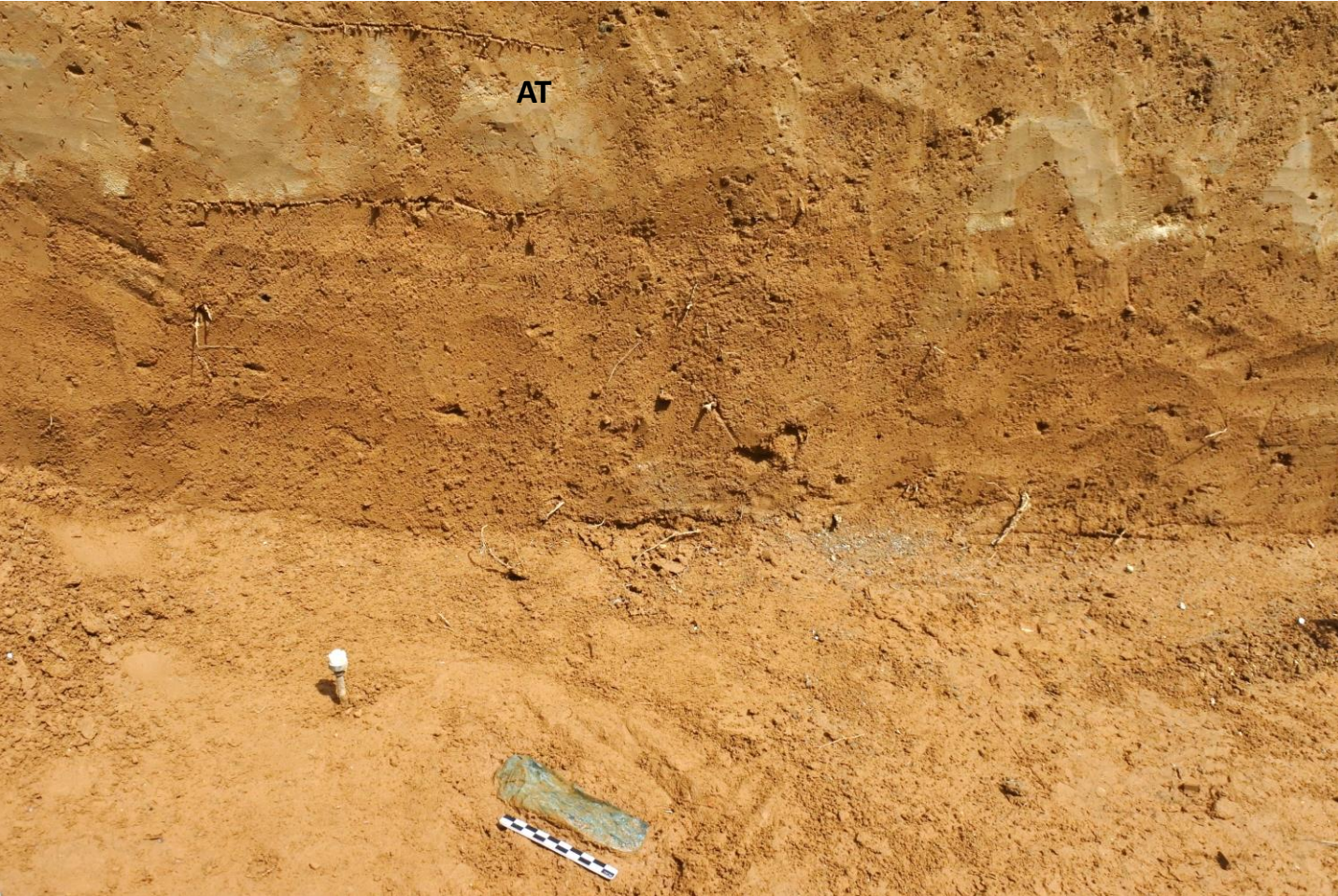


黒曜石製の大型石刃（長さ6cm、幅3cm）



黒色安山岩製の大型石刃（長さ12cm、幅3cm）

AT



石刃・石刃核のキャッシュから北西に約1.5m離れた位置より、局部磨製石斧が出土しました。



石斧は秩父帯の緑色岩製、列島最古の完形品です。



大型石刃と尖頭形剥片の組み合わせが基本です。

【わかったこと；新しい石器組成】

- ・完成した石器が持ち込まれた地点でした。
- ・これにより、**大型石刃**と**尖頭形剥片**の組み合わせが、基本組成とわかりました。
- ・そしてこれらに**局部磨製石斧**が加わります。
- ・後期旧石器時代前半期の代表石器とされる、台形様石器と基部加工尖頭形石器は検出されませんでした。

【課題；ユーラシアでの位置づけ】

- ・放射性炭素年代測定で年代を確定します。
- ・大型石刃と尖頭形剥片の基本組成を手掛かりにユーラシア全体の動向に位置付けます。



堤隆氏と須藤隆司氏に調査ご指導を頂きました。